

経論壇

経営支援NPOクラブ監事
吉田 仁



「人は見たいと思うものが見ようとしなさい」これはカエサルが語った言葉と思っていたが、出典のガリア戦記をあたってみると、部下の戦略立案について、人間性に基づいていると彼が評価を下したものである。いずれにしても2千年前に示された、人間性に対する洞察力に驚かされるが、心理学では確証バイアスや認知バイアスと呼ばれる人間のくせであるという。

この人間の心理を最も有効に利用しているのが、SNSのプラットフォームである。過去の注文から嗜好(しこう)が類推され、商品の提案がなされたり、同じ傾向の記事ばかりがスマホの画面に出てくるなど、誰しも経験している。それは、便利で効率である半面、主体性が失われ、モノの見方が狭くなる危険性がある。

SNSの普及の速度はすさまじく、個人の生活や社会の仕組みを変えて、その影響力は非常に大きい。人が容易につながり、コミュニケーションが取れるようになったことは素晴らしいが、使われ方によるマイナスマ面も指摘されている。自分の意見を自由に手軽に、しかも匿名性をもって発信できるため、他者に対する不当なバッシングの温床になったり、フェイクニュースの拡散になったりす

SNS社会に考えること

る。マスメディアの場合、報道内容に対する組織内チェックがあり、倫理綱領を定めたり、BPOなどの機関もあつて、内容に責任を持つ努力がなされているが、主要なSNSでは、表現の自由を理由として、投稿はほぼノーチェックが実態のようである。表現の自由は最も重要な人権の一つであるが、そこに責任が伴うことは当然である。SNSのプラットフォームは、その点をあえて避けていると思わざるを得ない。

SNSが、悪徳ビジネスの舞台になりやすいことも問題だが、一番憂慮すべきは、選挙におけるSNSの使われ方であ

る。都知事選、総選挙、神戸知事選において、SNSの影響が関心を呼んだが、広報のあり方として国民にとつて望ましいものであるのか疑問に感じた。政策がスローガンのになり、その内容が深堀されないまま支持につながったのではないか。耳にやさしい言葉を何度も聞くうちに、それが正しいと信じる過程は、まさしく「見たいものしか見ない」心理がベースにある。そして、選挙戦略として、フェイクニュースを流すようなことがあるならば、民主主義の根幹をなす選挙の公平性を危険にさらすものである。

実は、カエサルが評価した部下の戦略は、敵を欺く謀略であり、確証バイアスを利用して作戦なのだ。ナチスのプロパガンダも人間のこの心理をついたものだろう。確証バイアスは、いつの時代でもよいことには使われないことの証左である。SNS社会において、主体的な自己を保つために、視野を広くし多様性を受け入れ、批判精神を磨くことに努めたいと思つていく。

使われ方でマイナスマ面も